

令和5年度 大田区基本構想審議会
第2回専門部会（まちづくり・防災）議事録

日時	令和5年8月22日（火）10時から12時																		
場所	区役所本庁舎11階 第3・第4委員会室																		
委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">×</td> <td>村木美貴</td> <td style="width: 33%;">○</td> <td>松山知規</td> <td style="width: 33%;">○</td> <td>三木伸良</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>小谷木英資</td> <td>○</td> <td>秋成おさむ</td> <td>○</td> <td>佐藤伸</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>三沢清太郎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">※○：出席、欠：欠席</p>	×	村木美貴	○	松山知規	○	三木伸良	○	小谷木英資	○	秋成おさむ	○	佐藤伸	○	三沢清太郎				
×	村木美貴	○	松山知規	○	三木伸良														
○	小谷木英資	○	秋成おさむ	○	佐藤伸														
○	三沢清太郎																		
傍聴者	5名																		

議事日程	<p>開会</p> <p>1 部会長挨拶</p> <p>2 議題</p> <p>（1）第2回審議会に向けた流れ</p> <p>（2）第1回会議の振り返り等</p> <p>（3）アンケート結果等の区民意見の報告（速報）</p> <p>（4）分野別の目指すべき姿の取りまとめ</p> <p>3 今後の予定</p> <p>閉会</p>
資料	<p>資料1 事務局資料①</p> <p>資料2 事務局資料②</p> <p>資料3 事務局資料③</p> <p>資料4 今後の予定</p> <p>参考資料1 大田区データブック</p> <p>参考資料2 大田区基本構想（平成20年10月）</p> <p>参考資料3 アンケート自由記述欄の詳細</p>

1 開会・部会長挨拶

◎齋藤部長

それでは定刻になりましたので、ただいまから大田区基本構想審議会専門部会、まちづくり・防災の第2回を始めさせていただきます。委員の皆様におかれましては御多忙中の中、ご出席を賜りましてありがとうございます。私は事務局として本日の司会進行を務めさせていただきます、大田区企画経営部長の齋藤でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の会議において、ペーパーレスの観点から事務局資料等は机上に配布せず、スクリーンないしモニターに投影する形で進めさせていただきます。任意の資料をご確認いただく際は、お手元のタブレット端末をご活用ください。タブレット操作等に不備が生じた際には、お近くの職員にお声をかけていただければありがたいと思います。

なお本日の会議の様子を撮影録音させていただき、後日、議事録を公開するとともに、区の公式YouTubeチャンネルにて動画として公開させていただきますので、あらかじめご了承ください。

なお本日は村木部会長が欠席のため、部会長から事前にご指名のあった松山様に部会長職務の代理をしていただきますのでよろしくお願いいたします。それでは開会にあたり、松山様からご挨拶をお願いしたく存じます。よろしくお願い致します。

◎松山委員

おはようございます。よろしくお願いいたします。今日、今事務局から連絡があったとおり、村木先生がお休みですので、僭越ながら私の方で進行を務めさせていただきます。よろしくお願い致します。

◎齋藤部長

ありがとうございました。それでは議事に進んでいきたいと考えてございますので、松山様、進行・取りまとめ、よろしくお願いいたします。

◎松山委員

それでは本専門部会を進めていくにあたり、専門部会の成立について、事務局からご報告をお願いいたします。

◎野村課長

本日の専門部会の成立につきまして報告いたします。専門部会の成立要件につきまして、大田区基本構想審議会条例施行規則第3条第5項において、部会は部員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができないと規定されています。本日の出席状況でございますが、委員7名のうち6名が出席しており、定足数を満たしているため、本会議が成立

していることを報告いたします。以上です。

◎松山委員

ありがとうございます。ただいまの報告により、専門部会が成立していることについて確認をいたしました。それでは早速、本日の議題に関する資料について事務局からご説明をお願いいたします。

2 議題

◎野村課長

企画調整担当課長野村と申します。それでは事務局資料について説明をさせていただきます。

最初に第2回審議会に向けた流れについて説明いたしますので、資料1の3ページをご覧ください。今モニターに映っているものとなります。

今回の専門部会では、資料の赤枠で囲んである部分に記載のあるように、分野別のめざすべき姿について取りまとめていただき、その結果を第2回審議会に上げていく形を予定しております。

この分野別のめざすべき姿というのは、基本構想のうち、主に基本目標に該当する部分になりますが、本専門部会の検討結果をそのまま第2回審議会に素案のような形で示すことは予定しておりません。

といいますのも、基本目標の柱の数や、最終的な案を固めるにあたっては、他の2つの専門部会の検討結果等を考慮した上で、全体のバランスを見ながら固めていく必要があると考えております。

また、各種ワークショップをはじめとする区民の皆様からの意見募集も、現時点で全て出揃っているわけではありませんので、第1回の審議会で提示する基本目標のたたき台の案につきましては、資料に青い矢印で記載がありますように、本専門部会の検討結果、他の2つの専門部会の検討結果、区民意見の結果を全て踏まえた形で、事務局で作成いたします。ですので、第2回審議会では、後程資料3でお示しするフォーマットに落とし込んだ形での各専門部会の検討結果と、事務局作成のたたき台の2つが提出され、各専門部会の検討結果を踏まえつつ、基本目標の案を固めるための議論を行うという形を予定しております。

本日は、まちづくり・防災部会の分野別のめざすべき姿を取りまとめることを目的として議論、検討を行っていただくこととなりますので、資料2及び資料3で、検討の前提となる各種資料やデータについて説明いたします。それでは資料2をご覧ください。

資料2では、第1回の会議の振り返りやアンケート結果等についてまとめておりますので、まず第1回会議の振り返りについて説明いたします。

第1回会議後に提出された追加意見につきまして、資料の3、4ページでまとめております。3ページでは、松山委員の追加意見を記載しておりますが、防災分野では、国も含めてDXに関する取り組みが遅れていること。内閣府とデジタル庁による「防災DX官民連携共創協議会」でも、多様な市民の状況に合わせて、一律的な情報提供ではなく個別最適な情報を提供し、支援者の方も含めたきめ細かなサポートを行うことの必要性などが趣旨としてうたわれていることなどに言及され、こちらの資料の最後の一番下の一文に記載がありますように、「誰一人取り残さない防災対策」としてのDX活用は重要施策の一つではないかというご意見をいただいております。

また、資料4ページでは、秋成委員より、子育て世代が安心して子どもを産み育て、学ぶことができる環境をつくっていくためにも、駅前の環境浄化事業や、駅周辺の客引き・客待ちの一扫が必要ではないかといったご意見や、また下段で、自治会町会等が担っている活動などは、災害時等の有事で互いの生命を守るべく、共助の活動へと着実に繋がっていくため、好事例や先進事例を効果的にPRし、共感の輪を広げ、担い手として手を挙げる方が増加していくような流れをつくっていかねばならないといったご意見をいただいております。

以上の追加意見も含めた、第1回会議での主な意見を、資料の6～12ページで分野ごとにまとめております。こちらはまとめということで新しい内容を記載しているものではないので、各発言の詳細の説明は省略させていただきますが、意見交換の際などに適宜ご活用いただければと思います。

続きまして第1回会議で委員の方から、データブックに記載のない追加データに関するご発言がございましたので、資料13ページ以降で記載しております。まず資料14ページをご覧ください。

大田区データブックの人口分野に記載のある0～4歳の転出数、こちらが23区でワーストであるという結果について、第1回会議で、ここ数年でも同様の傾向が続いているのかといったご発言がありましたが、資料に記載のありますとおり、直近5年間は、23区で最も転出数が多い結果が続いております。

続いて次のページの人口ピラミッド図をご覧ください。第1回会議で、若い世代の男女比について、大田区は、男性が多く、逆に、世田谷区は女性の割合が多いのではないかというご意見がございましたので、世田谷区を含む近隣自治体の人口構成比を確認いたしました。20代から30代までの5歳ごとの人口構成比を割合で示しておりますが、世田谷区では、20代から30代の全てにおいて、女性の割合が高いという赤太字の結果となっておりまして、逆に大田区、こちら左の赤太字が男性、右側が女性となっておりますが、大田区では25～29歳について見ていただきますと、男性4.08%、女性4.09%とわずか0.01ポイントだけ女性が高くなっているものの、その他の5歳区分の世代では、20代から30代までいずれも男性の方が多くなっておりまして、大田区と世田谷区では、20代と30代における男女比の傾向が異なることが見てとれます。

続いて、資料17ページをご覧ください。こちらは昨年度、区が実施した転出者向けアンケートで、近隣自治体への転出者を対象に、転出先、転出理由等を調査しております。

資料の18ページをご覧ください。こちらは、転出者の転出先をまとめたグラフでして、上位5つは横浜市、川崎市、千葉県、埼玉県、品川区となっております。

次に19ページでは、転出先の居住地を選んだ理由、つまりは、転出理由を聞いております。こちらのグラフを見ていただきますと、住宅面積・間取り、住宅価格、通勤の利便性の3つが突出して多い結果となっております。

以上が転出者全体の傾向ではございますが、続いて20ページでは、先ほどの転出先の結果のうち、こどもが1人以上かつ20代～40代、つまりは子育て世帯である可能性が高い世帯に絞ったクロス集計の結果をまとめております。1位は全体の結果と同じく横浜市ですが、上位5つの中には、先ほどにはなかった、23区以外の都内自治体、横浜、川崎を除く神奈川県などが入ってきております。

続いて、21ページでは、こどもが1人以上、かつ20代～40代の世代に絞った転出理由をまとめています。住宅面積や住宅価格等が突出しており、続いて親族の住まいとの距離、通勤の利便性、買い物の利便性、公園を含む周辺の自然環境、治安の良さ、子の進学、まちのブランドイメージ等が続きます。これらの理由全てに対応していくことは難しいとは思いますが、今後子育て世帯にも選ばれる大田区を実現していくためには、引き続きこちらの分析を進めるとともに、ターゲットを絞って施策を展開していく必要があるかと思えます。

なお、本アンケート全体の回答数は1,547人となっておりますが、子育て世帯に関する結果はクロス集計のため、回答者数が153人と少なくなっている点にはご注意ください。以上が追加データに関する説明です。

続いてアンケート結果について説明いたしますので、資料23ページをご覧ください。今回は自由記述も含んだ結果として、7月31日までに集計した計15,720件のご意見を対象に分析を行っております。

資料の24ページをご覧ください。こちらは前回もお示ししました高校生以上を大人としまして、また小中学生以下をこどもとして、それぞれの結果を示したアンケート結果ですが、こちらの示し方では、上段の大人のアンケートのうち8割以上が小・中学生の保護者の意見という偏った結果になっておりました。

そこで今回からは、こちらの資料25ページのように、高校生以上については小中学校を通じて意見を回収しない、いわゆる一般の大人、もちろん保護者も含まれるかと思うのですが、保護者に限定しない一般の大人の意見という形と、また、小中学校を通じて、意見を回収した、確実に小中学生の児童生徒を持つ保護者の意見に分けて示す形といたしました。上段が保護者も含む一般の意見、下段が保護者の回答となっておりますが、今の大田区の姿については、左側で記載しておりますが、上位3つともそれぞれ異なるまちの姿が挙げられているものの、右側の将来のまちの姿につきましては、1位「子どもの安全が

守られているまち」、2位「子育てしやすいまち」は、ともに同じであり、保護者であるか否かにかかわらず、こどもの安全や、子育てしやすい環境を望むことが多いことが見てとれます。

この後資料の26～37ページでは、選択肢アンケートの結果を示しておりますが、こちらについて、詳細の説明は省略させていただきます。

続きまして資料38ページ以降、こちらで自由記述の結果について説明いたします。最初に、結果全体のイメージを掴みやすいよう、資料の左側で、自由記述における単語の出現頻度が高いものを、大きな文字で表現するワードクラウドという手法で示しております。また右側では動詞等は除いて頻度の高い名詞に限って、年代別に整理しております。

こちらの38ページは、一般の意見でして、子育て、子どもといった単語が特に大きくなっております。また右側の年代別では、30代、40代、50代を中心に、子どもという単語が多くなっており、こちらの自由記述はあくまでまちの将来像に関するご意見でしたので、やはり2040年の将来像が、一般も子ども関係が多かったように、ワードクラウドでも同様な傾向が見てとれます。

続いて39ページ、こちらでは保護者の自由記述意見の結果ですが、左側のワードクラウドでは一般と同じく子ども、子育てなどが多くなっていますが、保護者ということで、一般の方よりも学校等のワードが多くなっております。また右側の年代別では、全ての年代で子どもという単語が1位となっております。

続いて40ページでは、小中学生の意見を示しておりますが、ワードクラウドでは、公園、増やすというワードが非常に多くなっております。また右側の学年別では、小5から中3まで全学年で公園というワードが最も多くなっております。

ただこのワードクラウドにつきましては、「公園」「増やす」が多くなっていますが、この2つのワードは必ずしもこの2つの単語のみがセットで使われているわけではないため、単純に公園の数を増やしてほしいという意見が多いとは限らないことにご留意ください。例えば区内の公園の総数ではなくて、ボール遊びなど「〇〇ができる公園を増やしてほしい」という意見もあるかもしれませんし、また、区内のイベントを増やしてほしい、お祭りをもっと増やしてほしい、そういった意見でもこの増やすという単語がどんどん大きくなってしまいますので、またこのあたりの分析につきましては、41ページ以降、自由記述の記載でまとめて説明させていただきます。

41ページ以降では、アンケートの自由記述につきまして、データブックの分野ごとに分類し、その上で、もちろん重複の分類もあるのですが、比較的同様の意見が多いものを主な意見として、属性別に42ページ以降で記載しております。ただし回答数の少ない分野については、必ずしも多いと言えない意見も一部混ざっておりますので、その点はご了承ください。

それぞれ詳細につきましては42ページをご覧ください。こちらは防災に関する意見ですが、左側の属性のところの一般では「多摩川が氾濫しないように、洪水災害に強いまち」

という意見が、大人（保護者）では「水害時に安全に過ごせる避難所を増やし、安心できるまちにしてほしい」という意見が、小中学生では「海や一級河川に接している区として、津波や洪水に強いまちになってほしい」という意見など、過去の台風19号の経験からか、いずれの属性においても、地震等に加えて水害に関する意見が多く見られました。

続いて資料43ページの治安では、一般では「歩きタバコ、蒲田駅前の喫煙所、あちこちで見かける路上喫煙をなくしてほしい」、保護者では「蒲田駅周辺のキャッチ、呼び込み等を排除してほしい」、それから小中学生では「ポイ捨てがないまち」など、犯罪そのものというよりは、マナーやルール等に関する意見が多く見られました。

続いて44ページの公園・緑地ですが、公園というワードが特に多かった小中学生の一番下の回答から見てみますと「ボールを使える公園が未来にはあってほしい」「いろいろな遊びができる公園を増やしてほしい」など、公園の制約に関する意見が多くありました。また保護者につきましても「子どもが公園でできないこと（ボール遊び、ラジコン、自転車の練習等）が多すぎる」といったご意見もありまして、こどもや保護者がもっと自由に使える公園を求めているといったことが見て取れます。また緑に関しては、具体的な意見ではないものの、こどもを中心に、緑を増やしてほしいという意見が一定数ございました。

続いて45ページの地域力についてですが、大人（一般）の「地域住民が日常的に交流し、助け合えるまち」、保護者の「区や地域全体で子どもの安全・安心が守れるまちにしてほしい」など、単なる交流の促進ではなく、その結果として助け合いや安全・安心等を実現してほしい、そういったご意見がございました。

46ページの交通では、新空港線に対する賛成、反対の意見がそれぞれございましたが、賛成の意見の中には、少しでも早い開通を望むものが多く見られました。その他には、コミュニティバスに関するご意見や、小中学生からは「歩きやすい道にしてほしい」などの意見がありました。

47ページの住まいでは、大人からは「空き家をもっと有効に活用してほしい」といった意見があり、また小中学生からも「空き家を減らしてほしい」といった意見や、「建物が古く壊れているところが多い」といった安全面に関する意見等がございました。

48ページのDXでは、大人からは行政手続き等のデジタル化に関する意見が中心に出される一方で、小中学生一番下の欄、こちらでは「学校の宿題をタブレットにしてほしい」といった意見や、「学校の教科書は全て廃止され、パソコンが教科書の代わりになってほしい」など、一人一台端末が配備された今でも、まだまだデジタル化が不十分であり、もっとよくできると感じている、そういったようなご意見が出されています。

49ページの人口では、いずれの属性でも、少子化対策に取り組んでほしいという声が多くありましたので、やはりこのあたりに希望が持てるような将来像を目指していくことも重要かと思われれます。

50ページの自治体経営では、大人（一般）からは「区役所を土日にも開庁してほしい」といった意見や、また保護者や小中学生からは学校や公共施設の修繕、改修等に関するご

意見等がございました。

51ページでは、まちづくりとして、交通等の特定の分野に属さないハード整備を中心としたまちづくりに関する意見をまとめております。大人（一般）では「蒲田駅東西連絡通路はぜひ作ってほしい」、保護者からは「ターミナル駅（蒲田駅、大森駅等）を再開発してほしい」、小中学生からは「蒲田駅が汚いためきれいにしてほしい」など、主要駅に関する要望等の意見が多くございました。

52ページはその他として、羽田空港、SDGs、平等や平和等に関する意見を記載しております。

アンケートに関する説明は以上でして、資料2では、第1回会議の振り返りや追加データ、アンケート結果の速報といった意見交換のための基礎情報等について説明させていただきましたので、続きまして資料3では、具体的にどのような形で専門部会の意見を取りまとめていくかについて説明させていただきます。

資料3の3ページをご覧ください。3～6ページにかけましては、本部会で取りまとめでいただく、分野ごとのめざすべき姿のフォーマットを示しております。この後の意見交換では、まずこの分野にめざすべきまちの姿を落とし込んでいくことを念頭に、ご意見をいただきたいと考えております。また、分野ごとにめざすべきまちの姿の意見交換を行っていただいた後に、資料7ページ上段に記載がございます基本目標の構成に関するご意見をいただきたいと考えております。最後に全体に関する補足意見とありますが、専門部会において完全にはまとまらなかったご意見や、本専門部会の検討から発生する形で生じた他の専門部会等に関するご意見、それから冒頭で説明させていただきました、今後事務局が審議会の2回目に向けて、構想のたたき台を作成する際に、ぜひこういう点は意識してほしい、そういった取りまとめに関するご意見等を広く補足意見としてまとめることを予定しております。

この補足意見につきましては、明確に補足意見として議題を設けているわけではありませぬので、意見交換の際に、ぜひ補足意見としてご発言いただく形でも構いませんし、また仮にそうでなくても、事務局が事後に発言内容をまとめる際に、補足意見として整理すべき発言と判断した場合は、適宜補足意見として記載させていただくことを想定しております。

以上説明しましたとおり、本日の専門部会では大きく分けて3つの要素、1つ目は、資料3～6ページ目までの「分野別の目指すべき姿」、2つ目は「基本目標の構成に関する意見」、それから3つ目は、「全体に関する補足意見」。この3つについて、部会としての意見を取りまとめさせていただき、3部会共通のフォーマットとして、第2回審議会に意見を提示してまいります。

なお、本日の意見交換中に一言一句フォーマットに落とし込む文言を固めていただく必要はなく、各委員のご発言を踏まえながら、概ね全体の方向性と合っているものを、会議後に事務局が部会長とも相談しながら、フォーマットに落とし込む形でまとめさせていただきます。

できます。その内容を会議後に書面等でご確認いただき、了承を得たものを第2回審議会に正式に提示させていただく予定です。

資料3～7ページまでのフォーマットだけでは、実際に落とし込む記載のレベル感がわかりにくいと思いますので、資料8ページ以降で例をお示しいたします。

8ページでは、防災分野の例として、これまでの専門部会でのご意見や、区民の皆様からのアンケート、データブックの情報などをもとに、めざすべき姿としてはこういう方向性のまちが考えられるのではないかと、という事務局の意見を記載させていただいております。まちの姿の最後に赤い丸がついているものは、主に部会に出された意見をもとにしたまちの姿、青い四角がついているものは主に基本構想策定のためのアンケートでいただいたご意見をもとにしたまちの姿、緑の菱形は、主にデータブックのデータをもとにしたまちの姿となっております。

例えば防災では、本日の会議の冒頭で紹介させていただきました追加のご意見等を踏まえ、2つ目のポツで記載がございますが「テクノロジー等の活用により、多様な区民に対する個別最適な支援や対策がなされたまち」を例として示しております。またアンケートの自由記述欄に、電線の地中化を進めて歩きやすく、景観がよく、災害に強いまちにしてほしいという意見等もございましたので、そういった意見を踏まえて、下から2つ目「無電柱化が進んだ安全で快適なまち」などを例として示しております。

このような形で、8～15ページにわたって、分野ごとにまちの姿を示しておりますが、ここで示させていただいた姿は案ではなくて、あくまで意見交換の際に必要なに応じて参考にしていただくための例示ですので、各詳細についての説明は省略させていただきます。

また最後の16ページでは、基本目標の交通構成に関する事務局の意見を記載しておりますが、このページにつきましては、本日の意見交換の最後のパートの際に、改めて説明させていただきます。

本日の意見交換では、まず前半パートでは、「防災／治安／公園・緑地／地域力」の4つの分野について意見交換を行っていただきまして、12ページからの後半パートでは、残りの分野であります「交通／住まい／DX／人口・自治体経営・その他」といった、その他の分野も含めた全てについて、それぞれ事務局の示した例等を参考にしつつ、基本構想でめざすべき分野別のまちの姿についてご意見をいただきたいと思っております。

ここに示してあります、「〇〇なまち」という形でのご意見が難しい場合は、この分野でのまちの姿を考える場合は、こういう視点が特に重要だといったご意見や、こういうキーワードが重要だといったご意見でも構いません。もちろん重要となる施策等でも構いませんが、今回は取りまとめる回でもございますので、その施策の結果として、どのような将来像を掲げていくべきか、そして、2040年という目標年次を前提とした場合に、どのようなまちであれば区民にとって魅力的に感じられるか、共感が得られるか、そういった点も意識しながら、ご意見をいただけますと幸いです。事務局からの説明は以上です。

◎松山委員

ご説明ありがとうございます。それでは早速、意見交換に入っていきたいと思います。

今事務局からご説明いただいたとおり最初にご説明があった第2回審議会に向けた流れというところで、今日、8分野それぞれに議論をさせていただいて、こういう感じのまちみたいな大事なポイント、皆さんの共通理解のようなところを抽出できたらなと思っています。

最終的にはこれが完全にコピーライトするというものではないですけど、この議論をもとに事務局で基本目標というレイヤーの大きな目標のたたき台をつくっていただくインプットになると思っています。当然、議論の過程として個別の施策とか取り組みみたいな話もあっていいとは思いますが、なるべく大きな基本目標レベルで、きつこういうキーワードとか、こういうポイントが大事というところを、少し意識したような形で議論させていただくのがよいかと思っています。

全体の時間の流れ的には、「防災／治安／公園・緑地／地域力」の4つの分野に関して、11時過ぎぐらいをめどに、まずは議論を進めたいと思いますので、資料は先ほどのめざすべき施策の取りまとめを映していただきながら、順番は、フリーでいきたいと思いますが、最初にご意見いただいたところから深掘りしていければと思いますので、「防災／治安／公園・緑地／地域力」それぞれの分野に関しまして、ご意見、まずは、いただけますでしょうか。

◎佐藤委員

具体的な意見ということではないのですが、区民アンケートの自由記述欄のところ、今回ワードクラウドということでそれぞれのカテゴリーといいますか、こどもであったり子育て中の世帯だったり、また高校生以上の一般世代ということで出されているわけですが、ワードクラウドで見ると、こどものところで公園が多いと説明があったわけですが、これから話し合う防災とか治安だとか、公園・緑地など、それぞれの属性で主な意見が出ているわけですが、お話を聞いていると、この主な意見は、それぞれの属性の中で大体多かった順に載せているわけでもないのかなと思うのですが、いろいろな意見が出て、その中で主な意見を抽出するのはなかなか大変だということは理解しながらも、ご意見させていただいているんですけど、主な意見というのは、大体どんな基準で今回抽出をしてここに載せているのかおうかがいしたいと思います。

◎松山委員

事務局、できますか。

◎野村課長

こちらの基準ですが、人の目で集計したのは今回正直なところですが、なかなかうまくまとまりませんでしたので、一旦今回の2回目の部会に関しては、人の目で概ね合うような意見、この方向が多いだろうというところで作業しております。もちろん1人で全て行ったわけではありませんので、少しばらつきもあるかは考えております。ただ、やはり恣意的にこの事務局だけで取りまとめてしまうのは問題があるかと思っておりますので、最終的には、全てそろった段階では、自由記述の中で特に意味をなさない「特になし」という意見、もしくは誹謗中傷の単語だけを並べたような、外に出すには適切でないものもございしますが、そういったものを除いたものを全て公開させていただくという形でしっかり担保させていただきますが、現時点では人の手で作業しておりますので、第2回部会に合わせる形で行っておりますが、今後上げていく正式な取りまとめに関しては、もう少し客観的にできるように、AIを活用してみたり、さらに人の目にしても、何人かの複数の目をかけるというか、そういった作業で精査はしていきたいと考えております。

◎佐藤委員

ありがとうございます。途中ということもありますから、人の目で見て、こういうところなのかなというところを出したということだと思います。お話にありましたように、特にこれは外に出せない内容・表現以外は全て出すということですから、そういうものを見て最終的に判断するのでしょうか、ただ部会の中で話し合う一つの材料として、今回出ているものなので、大体どんな基準で、主な内容で、主な意見が出ているか確認してから議論に入った方がいいと思われましたので、今、意見を述べさせていただきました。

◎松山委員

ありがとうございます。そういう意味では厳密に何割以上云々とかそういう定義があるものではないと思うので、これをもって何かの賛否があったなどの、何かの判断をするというものではないのだと思います。

ファクトとしてこういう意見があったということをきっかけとして議論する程度としてとらえながら、参考にしながら議論できれば良いかなと理解をしました。

では具体的にこういった意見というのも参考にしながらですけど、どの分野でも結構でするので、ご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。どうぞ。

◎三沢委員

防災に関してなのですけれども、まずは自助、そして公助、これを皆さん、期待をされますけれども、やっぱりそれで足りないところで共助があるわけで。さらに最近では近助という言葉が使われたりしているかと思うのですけれども、ここは私もすごく大事かなと思っております。

この間の土日、私の地元の自治会で防災子どもまつりがありまして、それぞれ役割分担をしながら、私は近くの小学校の金管バンドの楽器搬送、自治会館からパイプ椅子をリヤカーで運ぶなど、そういう裏方仕事をやっていたのですけど。テントを張る係であったりとか、実際に消火活動をこどもたちと一緒にやる係であったりとか、楽器演奏の司会進行をする方であったりとか、消防車とか地震のそういう車とか、煙が出るところを担当する方であったりとか、みんな役割分担をしながら活動しています。やっぱり近所の人で顔見知りになって、それがこどもの安心安全にも繋がるし、防災防犯にも繋がるし。1年に1回とかのこういう活動が、いざ地震が起きたときに誰々がテントを立てる係、誰々が例えば非常食を受けて配給する係、誰々が受け付け簿をつくるとか、迅速に動けるようになると思うので、私は共助、近助は、結構大事なワードかなと思っています。

◎松山委員

ありがとうございます。まさに共助はかなり防災の領域でキーワードになっているかなと思ってまして。前回の議論のまとめみたいなのところも、公民の協力体制とか、区民の防災意識をそもそも高く持つからこそ共助が生まれるみたいなのところもあると思いますので、共助みたいなキーワードはおそらく前回の議論においても皆さん結構共通のポイントとして出てきたのではないかなと感じております。

他防災、別の分野でも結構ですけども、今の共助みたいなポイントに加えて何かございますか。賛同のご意見でも結構でございます。

◎秋成委員

今回、資料3の8ページ以降で、行政の方で、例としておつくりいただいたものの中身は、第1回の会議の意見、区民アンケートの意見を踏まえたものでとても良いと思いました。

資料3、8ページの無電柱化について、安全で快適なまちということでありました。資料2の46ページで小中学生の交通の意見の中で「道などがとても狭いのでみんなが通りやすく歩きやすいようにしてほしい」という部分で、ある区のある地域で、とても企業が多い地域の通学路に関して、とても狭くてこどもたちが、大人が出勤する中で歩道から出て通学しているような場面があります。そういった意味では、無電柱化については本当に防災に関しても、交通の部分でもとても有効であると、ちょっと細かいですが感じました。

◎松山委員

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

◎小谷木委員

三沢委員の先ほどの発言を踏まえて、三沢委員は防災の分野でおっしゃったのですが、

地域力の分野でも適応して、繋がりというのは一種のキーワードになると思いますので、防災に限らず、治安とか様々俯瞰的に見た上で、地域力は、地域住民の繋がり、相互監視と言いますか、お互いに見守るといった姿勢があるまちは、共通の意見になるのかなと思いますので、「見守り合うまち」といったキーワードは盛り込んでもよいかと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。まさにそうですね。最終の取りまとめは事務局でしていただくとして、地域力みたいなもの、そこにおける繋がりみたいなものがベースにあって、それがおそらく防災維持にも発揮されるし、日常的な治安みたいなものにも発揮されるという意味で、共助、共助を支えるベースとしての繋がりみたいなものは、おそらく何らか入れ盛り込んでいった方がいいだろうということなのだと理解をしました。

いかがでしょうか。どうぞ。

◎三木委員

今、話がありまして、やっぱり防災、すべて防災ではないのですけれども、全てに関して地域の力がやっぱり大事になってくる。そういう中で、昔の人がうまく言ったもので、向こう三軒両隣ということは、要するに自分の隣三軒が地域全部網羅するよという感じで繋がりが昔はできていた。ところが今ではやっぱりそういう日常的な繋がりがあまりない。そういう中でアンケートの中でもありますけれども、年に一度そういうイベントをやってもらいたいとか、地域としても、やっぱり集まってもらうことが大事。そこで地域の皆さんが顔を合わせるということが大事。それは要するに、防災、いろいろな形でのまちづくりに影響していくということは十分承知しているのですね。

ところがそれがなぜ遅々として進まないかということ、やっぱり地域の活動がその一時的なイベントを年に1回やるとしても、一時的で終わってしまう。それが1年間ずっとその皆さんの中で繋がっていくということはなかなか難しい。防災に関してもいろいろ防災訓練等をやりますけれども、基本的に学校防災、小学校中学校を拠点にした学校防災をやるのですけれども、それもある意味では、一般の人は来ない。要するに自治会役員とか、高齢者が担ってやっている。声掛けをすれば集まるのかわかりませんが、今地域としては、以前はPTAと協力をしてやっていたのですけれど、今はPTAというよりも、各学校の親父の会とか、いろいろな若い人たちが集まる会がございますので、そちらと協力しながらいろいろな活動をしていく。それで、地域に取り組んでいってもらうという活動をしているのですけれども、やはりいろいろなイベントをやる、これは大事なことだけでもそれが必ず1年間通して繋がっていくということが、最大の課題で、恒常的にやっていけばいいのでしょうか、各地域では大田区でもそうですけれども、10月になるとスポーツまつり、これが各出張所の関係で、いろいろなスポーツイベントをやったり

運動会をやったり、やっていますけど、そのときは、本当に人が集まるのです、確かに。一会場1,000人、2,000人と集まるのです。小学生も集まってくる。それはあくまでもイベントだけに集まってくる。またお祭り等も協会等でやったり、商店街でやったりしますけれども、人がすごく集まってくる。でも、普段は、全然人が来ないというのが現状なのですね。だからその中で今後20年先を考えたときに、どうやって人を集めて、防災についてもそうですけれども、そこを考えていかなければいけない。そういう中で、どなたかが「誰一人取り残さない防災というのが大事なじゃないか」というお話をしまして、私もまさにそうだと思います。誰一人取り残さない。要するに皆さんが協力し合っで初めて誰一人取り残さないということができないのではないかなと思います。これは個人個人が自分のこととしてとらえていかないと駄目な話なので。

9月1日に関東大震災の約100年が過ぎますけれども、大田区は大きな災害、これが最近台風19号があっただけで、それ以外には見舞われていません。そういう中で、要するに誰かがやってくれるのだろう、誰かがするのだろうということではなく、自分自身が何かあったときに何ができるのかと。何を地域協力できるのか一人ひとりで、20年先を考えたときに、今すぐはできないので、それをコツコツと積み上げていき、5年後10年後に、一つの強力な地域にしていくということが重要じゃないかと思っています。以上です。

◎松山委員

ありがとうございます。今ものすごく重要なキーワードがいくつか出たかなと思いで。地域力みたいところで繋がりとか見守るみたいなものが重要であるということはお多分言わずもがなで、それがおそらく、一時的であったりとか、あとは一部の住民だったりするあたりではいけないということなのだと思います。それが恒常的でかつ事務局の案とかにも「世代を問わず」のように入っていましたけど、そういう一部の高齢者の方だけとか、そういうことではなくて、世代を超えてという。そのあたりは、それをどう実現するかという難しさも言及いただいたので、それをこの部会で深掘りし切るのはなかなか難しい。ハードの部分は難しいのだと思うのですが、めざすべき姿としては、「世代を超える」とか、「一時的ではない」といったところは一つ重要なポイントなのだろうなと思いでました。

いかがでしょうか。どうぞ。

◎佐藤委員

防災のところですが、先ほどから、自助・共助・公助という話が出ていますし、この間大田区もその自助・共助・公助と言ってきたわけですが、本来自助は自分の身は自分で守りなさいと言われているわけですけど、地震や災害が来たから、自分は自分のことはやりませんという人はいないわけで、それはやるわけですけど、それに備えるようなことをも

う少し自分でということをお自助と言っていると私は理解しているのですけど。

ただそれにしても、自助をただやりなさいというだけだと、その問題意識等をどう高めていくかということも、私は公助に入っていく部分かなと思っています。公助というと、何もかも全て行政がやるのかという話になると、それはまた違うのだと思うのですが、ただ、やっぱり個人や団体ではできないような部分をどう公助で賄っていくか。それはソフトの部分であつたりハードの部分だつたりあると思うのですね。避難所等の開設だとか、どういう経路でどういうふうに避難をするかとか、そういう計画を作つたり、準備したりする部分はやっぱり公助の部分で、ハード面だと思いますし。

あと、今いろいろ出ているように、地域力だとか、横の繋がりをどう強めていくかということも、それぞれやっておきなさいということだと、どうしてもこれは高まっていけないので。やっぱりそういうところをどう進めていくか、日頃からそういう関係をつくっていくかということも、公のところをそういう協力体制をつくるような仕組み、流れもソフト面だと私は思っているのですが、強める必要があると思っています。ですからここで言っている防災、治安、地域力と言われているところは、結構連動している部分だと思いますので、ここをソフトの面とハード面を区はどのようなふうに考えていくかということに視点を置いた考え方ということがやっぱり重要なと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。共助が大事という文脈の中で、そのベースとなる公助のところですね、公助のところは一般的には例えば避難所開設だとかハードみたいなところが、ぱっと公助として思い浮かぶところですけども、日常的に意識を上げていくみたいなソフト的な取り組みも含めて、ベースとしての公の役割みたいなものにもご言及いただいたかなと思います。防災、地域力、関連する部分があるのであわせて治安のところも挙げていただきましたけど、治安であるとか公園・緑地辺りも少し議論を深めていければと思いますが、そのあたりいかがでしょうか。

◎小谷木委員

公園・緑地について述べさせていただきます。前回の専門部会でも松山委員から、いたずらに数だけではなく、実際に遊べる公園の質みたいなものが非常に重要だとおっしゃっていたと記憶しております。現に区民アンケートでも、小学生・中学生の意見として、ボール遊び、ラジコン、自転車の練習等、公園があつても自由ではないみたいなことに非常に言及されているということですので、やはり公園の質を一種の視点としてとらえるのは共通項なのではないかなと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。アンケートでも圧倒的に公園のワードも多かったもので、それが

全てかはわからないですけど、その意見が多いということはもうほぼ間違いないと思いますので。その中でも公園の量というよりは質に言及するような意見が多かったのでそのあたりは非常に重要なのだと思います。

◎三木委員

大田区は決して公園が少ないとは思わないのですね、結構数は多いのです。けども、要するに今お話があったように、公園というのはただ単に、遊具があって、それで、木が植わっているという、本当の憩いの場というか、そういう公園ばかりで、要するに、子どもたちが本当に遊べるような公園、これは本当にはないですよ。ですから、子どもたちが道路でキャッチボールしたりとか、道路でサッカーの練習をしたり、バトミントンやったりとか、そういうことで、道路で遊んでいるというのは、よく見かけます。

そういう中で、今後、公園の内容を、ただ単にベンチがある公園をつくるのではなくて、何か地域で一つぐらいはキャッチボールができる、バスケットボールのそういうものがあるとか、そういう子どもたちが遊べる公園、または、昨日か一昨日テレビでやっていたのですけども、花火、例えば、打ち上げ花火は論外ですけども、線香花火などの手持ちの花火もやる場所がないという形で、要するに子どもたちはどこで遊べばいいのだと。遊ぶ場所は道路しかないじゃないかと。公園があっても、子どもたちの遊び場ではなく、年寄りの憩いの場、休憩所というような感じで、公園そのものが、本当に利用されているのかなとちょっと疑問に思いますね。

ですから今後やっぱり10年、20年後の公園のあり方として考える場合は、やっぱり有効活用できる、ましてや子どもたちが自由に、自由と言っても危険はありますからどこまでかはいろいろ考えなければいけませんけれども、子どもたちが本当にのびのび遊べるような、そういう場所をつくっていくことが必要ではないか。アメリカでも高架下にバスケットボールの籠があったり、ちょっとしたスペースでもいろいろ活用していますよね。そういう形で、大田区でもやろうと思えばいくらでもできると思うので、その辺やっぱり10年後、20年後を考えていったらいいのではないかなと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。公園の質は、一律ではないのですよね。おそらく典型的な区が用意する公園は何となくこれまでのイメージとして、どういう遊具があって、緑があってみたいなイメージがあると思うのですけど、おそらく子どもの中でも、すごく小さな幼児の子たちが遊びやすい公園という話と、小6とか中3とか、すごく意見が出ていましたけど、あの辺の年代の子たちはなかなか共存して遊ぶのはなかなか難しいはずで、また高齢者の方がのんびりできる公園も多分違うはずなので。一律に公園というものをとらえるのではなくて、前回ポートフォリオみたいな議論も出ましたけど、地域の中でうまく、総量が一定あるのであれば、その辺をうまくターゲティングしながらこの公園はこういうター

ゲットがこういう活動ができるのがメインに考えるみたいな、そういったきめ細かい公園の戦略みたいなものが多分重要なのだろうと、今のご意見をうかがって感じたところです。

◎齋藤部長

よろしいですか、事務局から少し。今回我々も、このアンケート結果を見て、今までの公園政策のあり方がいいのかということは大変反省をしております。それで今、委員の皆さん方からもご意見をいただいたとおり、どちらかという公園というのは小さいお子さんから高齢の方までいろいろな方が来るので、万人に受けるということ、それから安全面というのがあるので、どうしても規制中心になってきます。ですが、キャッチボールができる公園がほしいと言ったような声というのは当然だと思うので、そういう特色ある公園づくりが必要ですので、それをやる場合には多分それ専用の公園が必要になってくると思いますので、今回いただいた意見、それから基本構想を形づくる上で、こういった区民の皆さん方の切実な声を反映するというのも一つの手だと思っております。ちょうど所管の部長が来ていますので何か見解があれば。

◎遠藤部長

都市基盤整備部長の遠藤でございます。公園について、日々利用していただいているとともに、いろいろなご意見をうかがってございます。キャッチボールができる公園は要望として多いというのがございますのと、そういったことに対する苦情を受けるのも事実でございますので、やっぱり限られたエリアの中で、皆さんが全部いろいろなことができるという公園というのはやっぱりなかなかつくることが物理的には無理な中で、先ほど話としてございました特色ある公園をつくっていくというのが、一つの解決策とっていいか、皆さんがいろいろご利用できる公園になるのかなと思いますので、ぜひそういったご意見を、さらにいただくと我々としてはありがたいと思っております。以上です。

◎松山委員

ありがとうございます。東京都心においてこの課題を解決するのはなかなか難しい、そもそも土地のスペースの量みたいなものもあると思うので。私みたいな田舎育ちの人間は公園でボール遊びができるのは当然のように生活してきたので、なかなか自分の子どもたちが公園で遊べないのはかわいそうだなと思うのですが、担当部署の部長さんから話がありましたけど、それをうまく工夫してできれば、非常に23区の中での都市間競争の競争力にもなると思いますので、これは一つ重要なテーマとして、解決はなかなか難しいと思うのですが取り組んでいくべきテーマだなと我々としても思っているところでございます。

あと、治安とか、皆さんから意見をお聞きしたいなと思っていまして。共助みたいな部

分が少し出ましたが、前回、小谷木委員でしたかね、犯罪の件数はそんなに多くないのだけれども、意識として安全なのだけであんまり安心ではないというような話がキーワードとして出て、実際今回のアンケートとかでも、すごく犯罪が多いから云々というよりはマナー的なものへの言及も結構あったかなと思ってまして、純粹に治安というよりは安心とかマナー的なものに少し寄ったようなポイントも大事なのではないかなと感じているところなのですが、そのあたり、何かご意見ありますか。実感としていかがですかね。

◎三木委員

マナー的なところでいいますと、喫煙場所が大田区は結構多いですよ、他の区に比べると。蒲田の駅前の西口と東口に一か所ずつあるとか、またちょっと離れたところにもある。そういうところで、喫煙場所を規制しても将来的にはいいのではないかと思います。これはタバコを吸う人の、いろいろご意見もあります。私も吸いますけれども。ただ、やっぱり吸っていいところ悪いところというのはきちんと分けていただく。まして特に子どもがいるようなところというのは、例えば、ゴミが捨てられ、タバコの吸い殻が落ちている中で、子どもにゴミを捨ててはいけませんよと注意してもびんとこないですよ。そういう面できれいなまちづくりは、一つ大事なのかなと。まちをきれいにするによっておそらく犯罪等も、関係してくるのではないかな。やっぱりわざわざしたところは犯罪とかそういうものにも影響してくるだろうし。雑然とした、よく言われましたけど玄関とトイレだけはきれいにしておけよと言われるぐらい、やっぱり見た目は大事というところもありますので、やっぱりまちの美観、これは徹底してやっていかなきゃいけない。それとあわせて、要するにモラル、そういうものをきちんと行政の方として、もうちょっと考えてもいいのかなと。すぐにはできないでしょうから、やはり20年後ということであれば、そういうのも一つ一つ減らしていくということが重要だと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。他いかがでしょうか、どうぞ。

◎小谷木委員

喫煙所に関して、私は喫煙しないのですが、喫煙所を規制するというよりもむしろ増やしてみる、ゴミの問題でも、ゴミをポイ捨てしたいから捨てるのではなく、ゴミ箱がないから捨ててしまうといった側面もあると思います。蒲田は風営法の対象になるようなお店が結構多いまちではありますが、それもやはりある意味では繁華街として区の魅力になっているといえなっていると思いますので、あと人間でするのでどうしてもそういうお店、そういうものは需要があると思います。そういったことを考えますと、一律に全部が全部駄目ではなく、そういったお店が集積している地区があるということを前提に、むしろそ

れに対応して喫煙所を増やすといいますか、よりゾーニングをしてあげたりみたいな、そういう、なくす方向ではなく、あるものとして、それをどうコントロールするかという視点の方が重要ではないかと思えます。以上です。

◎松山委員

ありがとうございます。大事な視点ですね。まちづくりみたいところで、そういう駅前商店街とか繁華街みたいな雑多なところを、必ずしも悪いものとしてなくしてしまうというのは、まちの多様性みたいなもの、にぎわいみたいなものも含めてなくしてしまうので、それはよくないことであると。一方で、そこから生まれる弊害みたいなものというものは、単純に規制するだけではなくて例えば喫煙所みたいな話も、ちょうどコロナが一番厳しいとき、喫煙所がどんどん閉鎖されて、それによって路上喫煙が増えるみたいな、そういう謎の現象が起きていた時期がありましたけど、そういったところの棲み分けみたいなところも含めて重要なのだろうと理解しました。いかがでしょう、このあたり。

◎秋成委員

今まで大田区の公園にもゴミ箱が置いてあった記憶がございます。いつ頃からかゴミ箱がなくなり、どうしようかというときに、例えばコンビニに行って捨てられるかといった場面がありますけれども。朝のニュースで、ある国の外国人に対しての対策の中で自治体がゴミ箱設置をまた始めるということもありましたので、まずゴミ箱がなくなった経緯、また区として今後の可能性といいますか、まちの美化という部分でのゴミ箱再設置みたいな可能性はいかがでしょう。

◎齋藤部長

そこは答えられますか。

◎柞木管理課長

都市基盤管理課長の柞木です。区の方角性として、お話がございましたとおり、公園でのゴミ箱は撤去する方向で行っておりまして、その理由といたしましては、ゴミ箱を置くとそこにゴミを入れられるのですけれども、またそのゴミを燃やされるという安全面の部分を最重要視したところもございました。しかしながら、それは一つの方角性としては良かったのですが、逆にゴミは本来であれば、近くのコンビニでもそうですけれども、置くとそこに入れられてしまうので持ち帰ってほしいというところの施策ではあったのですけれども、やはり場所がないと置いてしまうということが、インバウンドの関係等でありがちなどところもあるので、今後はもう一度立ち返って今までの取り組みとしてよかったのか検証しながら、この施策についてももう一度原点に返り検討していきたいと思っています。

◎三沢委員

今の補足なのですけれども、例えばシンガポールとかだとポイ捨てに罰金がありますし、ゴミ箱が前後見えるところに、必ずあると言ってもいいぐらいゴミ箱が設置されているような国もあります。大田区が今減らす方向になっているのは私も承知していて、どちらが正しいのかというのは、今の話も含めて精査が必要だと私も思うのですけれども、いろいろなそういう他のところの事例とかも踏まえながら、今後の方向性を探っていただきたいなど。私もゴミ箱がないので結構不自由することが多々ありますので補足です。

◎松山委員

ありがとうございます。

◎佐藤委員

治安のところ、自由記述の主な意見のところを見ると、ゴミ捨てなどのマナーが悪いとか歩きタバコとか、ポイ捨ての問題というのは、ほぼ出て来るわけですけど、これをどう見るかということだと私は思っていて。30～40年ぐらい前は普通に歩きタバコとか自転車に乗ってタバコを吸ってポイ捨てすることが当たり前と言ってはどうなのかわかりませんが、今よりもっと一般的だったのかなという中で、やっぱりそれが駄目なことだよというのがある程度社会的に認知されてきて、こういう意見になっていると思うのですね。先ほどゾーニングの話もありましたけど、ポイ捨てに関して言うと、捨てる場所がないからというのではないのだろうと思っていて。私も家の周りだとか、事務所の周りだとか、たまに朝掃除をしますけど、タバコのポイ捨ては減らないですよ。もう少しどこかにもって行って捨てればいいと思うのですが。そういうのがずっと残っていたりするというところでも、やっぱり社会的にそういうものは良くない。子どもたちがこのところに関心を持っているということは大事だし、将来的になくすという方向でいいのですが、今のゴミ箱の話じゃないですが、どこで吸ってどこで吸わないのか。また、ゴミをどう処理するのかということ、教育も含めて、社会的にどうこれをなくしていくかというところで、治安を良くしていく部分にあたるのかなと思っています。

ちょっと聞きたいのは、ワードクラウドを見ると、安心とか安全とかというのが大体どの分野でもどの年代でも出てくるわけですが、いろいろな話につくからそういうふうにならないのかなという理解はできますけど、治安のところを見るとそういう話になっていないので、具体的にどんなところで安心とか安全だとか、犯罪とかというのが入っているのか、わかれば教えてほしいのですが。

◎野村課長

詳細なデータは資料として審議会等でも周知させていただきますが、この安心・安全だったりとかというのは、必ずしもプラスで記載されているとは限らず、安全・安心なま

ちになってほしいとか、今はそうじゃない、両極端ありますので、おっしゃるとおりこの治安に関するイメージだったり、大田区は、今は最も当てはまらないまちが「犯罪交通事故が少ないまち」ということでしたので、どちらかというこの否定されるワードと一緒に使われていることがかなり多くありましたので。確かに安心という単語一言を切り取ってしまうとまるでプラスのようにも見えてしまいますが、どちらかというそうじゃなくもっとちゃんとそうしてほしいといった要望のワードで使われていることが多くございました。

◎佐藤委員

逆に言うと、この治安の部分でカテゴライズされる言葉として、また今の意見として、歩きタバコ、ポイ捨て、ゴミの不法投棄やゴミのポイ捨ての問題が、目に見えるということで、他のところではそんなはないというふうにも、この自由記述の主な意見のところだけ見るとそうとらえてしまうのですが、そのように見ていいのでしょうか。

◎野村課長

他のところはないというのは、治安以外では。

◎佐藤委員

いや治安のところ。

◎野村課長

治安のところでは、という。

◎佐藤委員

これが目に見えるからここの話をするのかなど。

◎野村課長

治安のところではこういった意見も多くありました。

◎松山委員

治安のところではタバコのポイ捨てとか、そういうマナー一面以外の記述はあんまりなく、ほとんどそれがメインだったのかということですよ。

◎野村課長

そうですね。やっぱり治安であったりマナーであったりキャッチ、こういったものが大半を占めておまして、確かに皆さんの中には犯罪というものの中にあるのかもしれない

せんが、自由記述では将来どんなまちになってほしいかという聞き方をしている関係もあってか、今現状こうなっている、この犯罪があるという意見ではなくて、やっぱり将来こういうふうになってほしいし、そういうものがないまちになってほしいということで、もちろん参考資料でも記載させていただいたように、今参考資料を映します。完全にマナーだけではなくて、こちらが治安で小中学生の意見なのですが、やっぱりこどもとしては、適切な用語かわかりませんが「蒲田の治安が悪く、ヤンキーが多くて怖い」、こういったような、もちろんこういう、怖いという意見も、犯罪者みたいな意見もあるにはあったのですが、全体として見たときには、やはりマナー等、そういうまちになってほしい、ただ単に、犯罪がなくなっているというよりは、やはりそういう視点が多かったと見てとれますので。ただ、先ほど申しましたように、どうしても人の目で精査した部分もありますので、もう1回そのあたりはしっかりAIも加味するなり、もう少ししっかり集計も改めて再度精査したいと考えております。今回参考資料3でこういった細かい意見を記載しておりまして、翌営業日にはホームページにもアップしますが、このあたりに、もうちょっと細かい属性別で、さらにどんな意見があったか示しておりますので、こちらをご確認いただければと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。

この意見が、分析はまだ深掘れてはいないのですが、先ほどのゴミ箱の件とかも含めてそういう対策も必要なのだと思いますが、ゴミ箱で逆に燃やされたりするリスクがあるというのも含めて、冒頭から出ている見守りだったりとか、相互監視みたいな、ベースの意識みたいなものが多分重要で、ここに書いているマナーとか喫煙対策とかも、重犯罪みたいなものは相互監視で守れるものじゃなくて、それは警察でやってもらわないと、手を出すと危険だと思うのですが、ポイ捨てだったりとか、喫煙みたいなものは、どう見られているかというまちの雰囲気、非常に大きく影響する部分だと思うので。そういったものに対してこどもたちの意見としてもすごく重要なワードとして出ているというのは、ある意味、将来に対して希望があるというか、そういうことをこどもたちが意識しているということだと思うので、そういったみんなの意識を上げていくみたいなのところも、将来のめざすべき姿の一つのポイントとしては入れていったらいいのではないかなと、皆さんのご議論をうかがっていて思ったところでございます。

よろしければまた最後、こちらでどうしてもというところがあれば戻ってこられればと思いますので、一旦後半の「交通/住まい/DX/人口・自治体経営・その他」の議論にも入っていければと思っています。どの順番でも結構ですので、事務局が書いていただいているたたき台も参照しながら、ご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。

◎三沢委員

一ついいですか。DXについてなのですが、防災に絡んでのお話もあったかと思いますし、何かちょっと他のカテゴリーとは少し異質かなと感じています。DXというのは、それこそ防災であったり、交通であったり、地域力であったり全てに対して必要となってくる手段だと思うので、これを目的というか、他の項目と同じところに並んでいることに少し違和感があるのですが、いかがでしょうか。

◎齋藤部長

事務局企画経営部長齋藤です。まさに今ご指摘があったように、DXというのは、一つ分野だけではなくて、区政のあらゆる分野に横断的に関係することです。ですので、例えば今後基本構想をつくって、基本目標をつくるという場合に、それを柱の一つにするのではなくて、柱を支える部分ということで、まさに手段として考えてございますので、それは認識が一致していると思っております。

◎松山委員

ありがとうございます。そのあたりは基本目標の構成みたいなところでも少し議論できるとは思いますが、おそらくそういう共通認識だと思います。ですので、DXの状態をどうすべきかという意見より、例えば、どういった分野において、そういうところを進めないといけないとか、何かもしそういう観点でご意見があれば、それは基本目標になるということではないと思うのですが、一つの重要な施策をイメージする意味で、ご意見いただければと思います。

◎三沢委員

DXのついでなのですがけれども、例えば一つの事例として、学校で親御さん向けの配布物があります。日本人なら普通に読めるけど外国人は読めません。私、これ何て書いてあるのか訳したりすることがあるのでありますが、最近はグーグル翻訳とかを使えば、ある程度訳せるようになってきたので、便利な世の中になってきたなと思っているのですが、やっぱり使われている言葉が少し難しかったりすると、翻訳がちょっとおかしくなってきたりすることもあるので、例えばそういうプリントとかも少し平易な言葉を意識してもらえると、実を言うとそれだけで、DXと変にうたわなくても、既存のツールを使うことによって、誰一人取り残さない、こういったところにも繋がるのかなと思っているので、工夫のしようはあるのかなと思っています。

◎松山委員

ありがとうございます。今、一例をいただきましたけど、DXはまさにデジタルトランスフォーメーションと言っているのですが、単純にデジタル化というだけではなくて、そのデジタル化をきっかけに、そもそも業務自体をトランスフォーメーションしようという

文脈で、デジタル化するためには複雑な業務だとそもそもデジタル化しにくいので、あわせて業務を簡素化するとか、標準化するみたいなことも含めてだと思うので、その一環として、今の事例とかも関わってくると思いますので、このDXを通じて、そもそもそのサービスを標準化していくみたいなのところもめざすべき方向性としてはあると思いました。他の分野とかも含めていかがでしょうか。どうぞ。

◎秋成委員

住まいのところになりますけれども、今回まとめていただいた例に入っていない部分なのですが、現在、高齢者の方の住宅確保がかなり厳しい状況で、いろいろな事情から、急遽、アパートなどを追い出されるという状況の中でなかなか見つからない。大田区の居住者支援協議会等、努力を続けてきていただいているのですけれども、そういった住宅確保支援の部分、例えば現在、シルバーの住宅も何十倍という倍率で、高齢者アパートを大田区もつくってきていただいているのですが、現在、やはり老朽化しています。大田区の高齢者の住宅確保の部分、再度大きな形で、例えば、今やっていない部分で新たな方法として、大田区はこんな取り組みで高齢者の住宅確保ができていると、何かそういった部分の検討をいただければと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。そうですね。そんな簡単な問題ではないとは思いますが、例えば空き家の活用の文脈もそうですし、今の話で老朽化しているというところでそれが景観みたいな文脈も際立ってきていますけれども、住まいというのはベースのハードですので、非常に重要なポイントなのだろうと思いました。他、皆さんいかがでしょうか。どうぞ。

◎小谷木委員

交通の文脈でDXの話をする、例えばMaaSであったり、DXを使って交通を考えてみたり、ということは共通の認識としてとれるのではないかなと思いました。例えばコミュニティサイクル、カーシェアリング、デマンド交通の醸成をデジタルファーストで行っていければ、DXに繋がるのではないかなと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。そうですね。そういった部分は基幹交通だけではなくて、支流交通みたいな文脈によっては非常に重要でしょうね。カーシェアとかそういう施策の部分はありつつ、めざすべき姿、こんな交通観点でこんなまちがいいよね、というところ。すごく課題が、先ほどの防災とか防犯とかに比べて、区民アンケートとか含めて、いっぱい出ている印象はないかなと思うのですが。何かめざすべき方向として重要だと思われるポ

イント等、ございますでしょうか。

◎三沢委員

交通に関してなのですけれども。ここに書いていない中で少し大事かなと思ったのが公民連携。あと、民間企業でもセクショナリズムで東口はどこどこ、西口がどこどこかあると思うのですけれども、もう少し柔軟な発想をすると、交通は、東西の分断が解消されたりとか、羽田空港に行きやすくなったりとか、民間の企業の力も借りたりとか、もっと柔軟な発想ができるのかなと。今ある既存のやり方でどうするべきかを越えたところに解決・解消方法があるのではないかなと思うのですけど。

◎松山委員

ありがとうございます。重要なお指摘ですね。まさに先ほどMaaSみたいな話も今日を出してもらいましたが、そういうのもモビリティー間のシームレスな繋がりをMaaSでやっていくという文脈とかもあると思いますので、既存の交通、ハードみたいな、一定は整備されている中で、それをいかに繋げていくとか、官民連携、それは民間の中でも東西口の連携、連絡通路を繋いでいくみたいなどころ。そのあたりが多分重要なキーワードとして出てくるのかなというふうにご意見をいただきまして思ったところでございます。どうぞ。

◎佐藤委員

今の交通の話ですけど、今、三沢委員から指摘がありましたように、東西で分けられているという部分などもありまして、一般区民としてはなかなか不便な部分があると思います。公民連携というところでどう進めていくかという話がありましたけど、やっぱり連携すること自体を全く否定するわけではないのですが、大田区としての役割というのはかなりあると思っていて、今コロナ禍から明けたとはいえ、なかなか交通が以前のように回復しないという中で、民間はやはり儲けが出ないと、バス路線もなくなったり、減らしたり、運賃の値上げということも、区内のバス事業者もこの間やってきていて、なかなかそうしますと区民としては、今はいいのですけど将来的にはどうなのかとなってしまいうわけですよ。そういうときに、公である大田区の役割というのをどう発揮するか。

前回のこの部会でも確か発言しましたが、JRから東側がいわゆる京急で、西側が東急で、東西を結ぶ線がなく、ゾーニングされているという問題もありますから、そこを大田区がどう役割を発揮して、東西の交通を含めて、スムーズに区民の皆さんの利便性に答えるような交通網をつくっていくか。その役割が大事だと思いますので、そういう分野というのもしっかり考えていければと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。他いかがでしょうか。どうぞ。

◎小谷木委員

人口と住まいについてお話をさせていただきます。人口について、皆様、どう子育て世代の流出を止めるか、そしてあわよくば流入させるかについて議論されているので、まず人口に関しましてはファミリー層を厚くするみたいなことは共通項で認識しておりますので、めざすべき姿としても、ファミリー層が多いまちみたいなことはたたき台になるのかなと思います。その上で、事務局資料2の21ページです。ファミリー層の転出者のアンケート、これはサンプル数が少ないということで参考程度ということですが、主に住宅面積や住宅価格が問題になっているということでしたので、これは住まいに非常に関連してくるのかなと思います。そうした文脈で言いますと、ファミリー層を厚くするためには、もちろん駅前の路上喫煙等の先ほどの議論も関係すると思いますけど、やはりファミリー層向けの住宅の供給を増やす、そういったものをアピールすることは非常に重要なかなと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。最終施策として、ファミリー層向けの住宅を増やすこととか、先ほど高齢者の方の住宅も不足しているみたいな議論もあったので、どういう形で住宅を増やしていくかは個別の政策として深めないといけないところだと思うのですが、前段で言っていた人口のところですね、どういったまちをめざすかといったときに、子育て世代・ファミリー層を増やしていくようなまちをめざすべきだということに関しては、区民のアンケートにおいても、保護者の方はもちろんですけど、保護者ではない一般の方も、上位の2つがこどもの安全とか子育てとかで、区の将来を踏まえたときに、その層をしっかり手当していかなければいけないということは区民の多くの世代の方共通の思いなのかなと思いました。人口のところで子育て世帯を増やしていくというキーワードは一つすごく重要なポイントなのだろうなというふうに理解をしました。どうぞ。

◎佐藤委員

今のご意見、私も全く同感で、そのように思います。空き家の活用を促してほしいとか、空き家の活用についても言われながら、アンケートの自由記述の大人（一般）やまた大人（保護者）のところでは、ワンルームマンションばかりできて、ファミリー向けのマンションが少ないとか、ワンルームマンションが増える中で単身の短期居住者が増えて、若いファミリー層が増えない、これにより治安・マナーの悪化が懸念されるという話だとか、狭小住宅・ワンルームマンションは増やさないでほしいということなどと書かれているのは、私は注目すべきことだと思っています。私は大森に住んでいるのですが、不動産屋さんのお話を聞きますと、駅前に空き地ができるとすぐそれがワンルームマンションになると。

古くなったワンルームマンションは人があまり住まず、新しいワンルームマンションに移っていく。ワンルームマンションばかりこんなにできて、数十年後には破綻してしまうのではないかということ、不動産のプロはお話をしている、ああいうところにどうやっていつも銀行がお金を貸すのだろう、という話をしています。やっぱりまちのつくり方として、そういう住宅がそんなにできて、資本主義じゃないですか、どうやって儲けようかとそういうふうを考えて動いているわけなのですが。面で見たときに、これがいいのかどうかということをやっぴりある程度、行政・政治として規制をするべきじゃないかということなどが、不動産をやっている方などからも出ていまして。今回、先ほどご指摘ありましたようにファミリー層が流出をするという原因の中に、この住まいの問題、空き家が増えていくという問題が出てきていますから。やっぱりまちづくりの観点としても、こういうところをどうとらえてこうならないような仕組みをどうつくっていくかという観点は、10年後、20年後、30年後の大田区にとっても私は重要な課題だと思いますので、ここをしっかりと今回も考えて、規制するべきだと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。かなり政策的には難しい問題で、需要と供給みたいところで、まさに今日の事務局資料にありました世代構成みたいところで、単身世帯はそれなりに増えていて、こどもが生まれると抜けてしまうというこの循環が回ってしまっているの、民間の不動産デベロッパーからしても、短期的にはワンルームマンションをつくった方が需要を満たせるので、というサイクルに入ってしまったのだと思います。それに対して、長期的なまちづくりの観点で行政的にてこ入れをして、子育て世代への不動産の民間投資みたいなものを促進していくようなことができないかというそういうご指摘かなというふうに理解をしました。

施策としては具体的にどうするかというのは今後検討だと思うのですが、めざすべき姿として人口のところでやっぱりそういう層をターゲットにしていくということは、やはり共通の思いなのかなと理解しましたので、確実にこの部会としても入れていくべきと思いました。どうぞ。

◎三沢委員

関連してなのですが、私が、大田区と世田谷区の男女比のところ、質問をさせていただき、資料を作っていたので、そこに関連して触れますけれども、多分、若くして最初のころは女性も男女比それほどなく住むけれども、やっぱりだんだんと女性はいなくなってくると。世田谷区や目黒区は女性比率が高いけど、大田区は女性がいなくなっていくまちだと。事実としてそうなっているわけなのですが、やっぱり女性は安心・安全とかまちのブランドイメージとか、そこがすごく効いてくると思います、特に若い方は。女性が安心して住めるまちというのが、イコールそれが、子育て世代とかが安心

して住めるまちにも繋がってくると思っています。

あともう一つここに挙がっていたのが、こどもの学校で、今回、この部会では学校は関わりがないのですが、ちょっと一言、意見をさせていただくと、大田区って親御さんからすると、行かせたい学校があまりないのかなと思っています。もちろん小中公立に行つて、高校から受験とか、都立に行くというのはたくさんもちろんいらっしゃいますけれども、どこか受験して、例えば私立とか国立とかに行こうとすると、大田区の学校はあまり選択肢に入らないです。大体都心に行くか、多摩川を越えて神奈川の学校に行くということが多く、行きたい学校があると、こどもの学校が近いから大田区にこのまま住む、ということにも繋がってくるのかなと個人的にと思っています。

◎松山委員

ありがとうございます。学校は非常に重要ですね。住居を選択する上で、もちろん経済的な住宅面積とか間取りとか家賃とかも、もちろんあるのですが、それを前提としたときにどこに住むかというときに、やっぱりこどもの学校をきっかけに、転校する、中学受験をきっかけにとか、そういうのはよくあるパターンです。あとは学校が増えるみたいなところ、それは大学とか高等教育も含めてですけど、学校が増えることによって、治安や文教地区的なイメージも含めて、波及する文脈はまちづくりにおいて非常に大きいと思うので。単純に学校を増やせということをお願いしたいわけではないのですが、やっぱりめざすべき姿として、子育て世帯、こどもの教育とかも含めた、そういうところを充実するまちみたいなのところというのは、絶対的なキーワードとして重要なのだというふうに改めて理解をしたところでございます。その他いかがでしょうか。どうぞ。

◎秋成委員

自治体経営のところなのですけども、地域庁舎のそばにあった、歩行者の方の安全を守るような設置物が数ヶ月壊れていた時期があつて、地元の方に言わせると、かなり長期間だったということなのですが。交通や公園関係で、職員として担当課・部署に連絡することがしづらいような状況がある場合もあるのかなと考えまして。例えばそれを区で取りまとめいただいて、危ない事案や状況を収集するようなことを作り上げていただくと、まちの安全とか、区民の安心にも繋がっていくのかなと思ひまして。そういった方法を検討いただくと、まちがより良く、また安全になっていくのかなと思ひました。

◎松山委員

ありがとうございます。それはあれですかね。行政の職員の方同士という文脈もありますし、区民の方がそういうことに気づいたときに、直接声を上げるルートも含めてということですかね。

◎秋成委員

そうですね。区民の方から、例えば気づいたところを写メで撮ってメールで送るような仕組みを区につくっていただいて、そこに上がってこないような、大田区在住、または在勤で区内を回る中で、何か気づいたときに、職員の方が連絡をしづらいような状況があるのではないかなというふうに思っています。その辺をうまく集めて、改善に至るような方法を作っていただくと、またそれが職員のインセンティブではないのですが、そういった部分があると、またちょっと変わってくるのかなと思ひまして。

◎松山委員

ありがとうございます。何かありますか。

◎野村課長

職員といひますか、自治体のあり方、自治体経営のあり方でもありましたので、基本構想の表面の限られた文言にそこがはつきり入ってくるかは別として、基本計画等を見直す中で、単に自治体の運営のあり方ではなく職員の意識、もしくはただ「頑張りましょう」ではなくて、今、秋成委員がインセンティブとおっしゃいましたが、何かしら自然と動いていく仕組みが大事かと思ひますので、せっかくの新しい構想・計画をつくるタイミングではありますので、そういった自治体経営のあり方についてもじっくり検討を進めてまいりたいと考えております。

◎松山委員

ありがとうございます。そうですね、ここ（資料3の15ページ）の下から5個目ぐらいに「住民一人ひとりが主体的にまちづくりに関わることのできるまち」とありますけれど、これからの自治体経営という文脈でいくと、これは結構重要なポイントかなと思ひておひまして。今、秋成委員にご指摘いただいたところで言うと、行政のしかも担当課みたいなところだけがその問題に対して取り組むということではなくて、他の課の方も、それはもちろん行政の職員の方だけでも駄目だと思ひていて、多分区民の方も含めてということで、行政だけに任せるといふことでもないし、行政は行政で、区民にも寄り添ってといふ文脈で、みんなでまちづくりをしていくといふ共助といふキーワードが最初から出ていますけれど、そういうところも含めて、大田区民全員で大田区をよくしていくといふようなところは、その他の共通的な文脈かもしれないですけど、一つ、区のあり方としては重要なポイントなのかなといふふうには、今お聞きして思ったところでございます。その他前半の分野でも結構ですし、どうぞ。

◎三木委員

まちづくりと交通のところでは2つほど。まちづくりの方ですけれども、大田区といふの

は非常に特異な区、23区の特異な区で、調布地区、蒲田地区、大森地区と、それぞれに違った特色のある区ですよ。ですからまちをつくる中でも、これを一律に一つの区として考えるのではなくて、やっぱり地域・地域に根差したまちづくり、これはやっぱりやっていかないと。例えば蒲田地区の例を調布地区に当てはめたとしてもそれは無理だろうし。調布地区の例を大森地区に当てはめようとしても無理が出てくるだろう。やっぱり地域・地域の特性を生かしたまちづくりというのを考えていかなきゃいけないのかなということが1点。

それともう一つ、交通の方ですけれども、大田区は意外と都心に出ていく、神奈川方面に出ていく、あと他のところに出ていく、外へ出ていく交通の便が非常にいいですよ。そんなに悪いと思わない。ところが大田区内の移動、これが非常に不便なのです。調布から羽田、蒲田、糎谷地区。それから大森から調布へ行くとか、区内の移動が非常に不便な区というのかな。これは結構、私としては印象として結構強いと思っています。ただ外に出て行くには非常に便利な区なのです。東京駅方面、渋谷方面、新宿・横浜方面、これは電車一本でさっと行ける。区内を移動するよりも、東京に出た方が近いぐらいの時間差で外へ出られるというのが大田区の特徴で、これはやっぱり将来、大田区内の移動をいかに容易にしていくかということを考えていかないと、やっぱりこの3つの特色ある地域の交流というものもできていかないでしょうし、大田区そのものを盛り立てていくためには、この3つの地域が協力しながら盛り立てていくということが重要なところではないかなと思っています。

また、先ほど、住宅価格とかいろいろな形で、人口のところ、出ていった方のアンケートを見ていくと、間取りとか住宅価格とか、そういうものが上位にきているところで、大田区は意外と全域でどこの地域をとってもそんなに住宅価格が変わってこないのです。ところが、横浜とか川崎、あるいはそれ以外のところというのは、横浜市といっても、横浜の駅の周辺とかそういうところは高いでしょうけれども、同じ横浜でもちょっと離ればもう田舎ですから、結構価格も安く手に入るとか、同じ価格でも間取りを広くとれるとか。要するに、アンケートだけでは、横浜や川崎で言いますと、ちょっとわからないというのもおそらくあるのかな、ところが大田区の場合は、先ほど言いましたように、大田区の全域、どこを取っても大体、地価にしても、アパートの家賃にしてもそんなに変わりがないので、横浜とか神奈川とか千葉、その辺とは違うかなと。

子育ては、全般的にずっと言ってしまうけれども、ここ数年においても、子育てしやすいかどうかというところで、例えば千葉県とかそういうところで今、話題に上ってくる移住者が多いところで流山というところが上がっていますけれども、これも千葉県の中のほんのごく一部の地域、自治体が一生懸命頑張って呼び込んでいます。大田区も成功している自治体からそのノウハウを学びとって、20年後に、こういう大田区にしていきますよということが一つの方向性としてあるのかなというふうに思っております。以上です。

◎松山委員

ありがとうございます。いくつかいただきましたが、結構共通的に重要なことをおっしゃっていただけたかなと思っていて、軸になるかなと思ったのは交通のところ、地域内交通の不足みたいな話、これは結構重要で、先ほどの人口のところで子育て世代をターゲットにしていこうという文脈のときに、今の交通の利便性は、単身世帯が仕事に行くとか、あとは子育て世帯で、お父さんお母さんどちらでもいいですけど、働きに行く等、そういうところでは非常に便利だと思うのですが。子どもを連れて公園に行くとか、病院に行くとか、大きな移動ではないけど小さくコミュニティの中を移動する利便性は、相対的に低いのだというような推察を差し上げました。

なので、その部分というのはめざすべき人口の将来像みたいなのところにもリンクするところですし、その文脈の中でまちづくりとして地区ごとの特色が結構違うという話もあって、そのあたり、地区ごとの特色が違うということを、区民の方が、どこまで実感として認識できているか。おそらく区内のコミュニティ交通みたいなものが少ないのであれば、他の地区に行くより、区外に行くことの方が多いので、その中であまりお互いの地区のことを理解し切れてない。もしかするとそうすると、単身のときは蒲田駅前で、子育てする際は外に行くのではなくて田園調布の方に行くとか、ライフステージに合わせて区内の中での引っ越しみたいなことも、もしかしたら実現できるかもしれないし、そのあたり結構大田区がいろいろな地域を持たれている、一つの区であるものの大きな区であるというところを生かした政策みたいなものは、交通を軸に考えていっても面白いのではないかと理解をしました。ありがとうございます。その他、少し言い残したみたいなのところがある委員の方いらっしゃいますでしょうか。どうぞ。

◎三沢委員

最初の公園のところ、他の委員の皆様と同意見なのですけれども、大田区はインクルーシブパークとか、泥んこで遊べるプレイパークとかそういったものが、比較的他の自治体と比べると少ない。隣の品川区は水神、ここからすぐのところでも、こういうインクルーシブパークとかがあったりするのですけれども。もう少し誰も取り残さないという観点を考えると、障害を抱えている子どもたちでも安心して遊べる遊具があるとか、大田区にはないから、では外に行きましょうという話に今はなってしまうので、もう少しいろいろな公園の形態が、今おっしゃった、大森、蒲田、羽田、糀谷、調布のところに、特色のあるものがあってもいいのかなと個人的には思っています。

◎松山委員

ありがとうございます。先ほど議論していた、いろいろなターゲットへの質を上げていく、特色ある公園をつくっていくみたいな文脈の中での一つのテーマとして、そういうダイバーシティ的なところも含めたキーワードをいただいたのかなというふうに思いますの

で、それも非常に重要なテーマだと思います。ありがとうございます。

◎秋成委員

今の公園の部分なのですが、公園の砂や土が舞って、大分ご近所にご迷惑で、かなり厳しい状況もある中であって、先ほどいろいろな希望の中で、ボール遊びをしたいという要望以外に、自転車の練習とかラジコンの部分も出てきました。最近はスケボーの人口がだんだん増えてきている状況もありますので、例えば土だけではないような部分も、公園だけではなく、区の施設をつくる時に入れ込む等、検討いただけないかと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。別に大田区がないというわけではないですけど、いろいろな区の公園の中で、種類がいっぱいありますよね。アスファルトみたいなところでボール遊びができる区画をつくっている公園とか、従来のような砂場とかがあってという公園もあれば。多分先ほど来話している、一律の公園ではなくて、いくつかターゲットとかを見ながら特色のある公園をとという中の文脈の一つとして、そういう特定の遊びがしやすいみたいなども重要になってくるのかなというふうに理解しました。公園の質を全体の構造を組みながら上げていくということが共通的に重要なテーマなのだというふうに今日の議論としては理解をしておるところでございます。どうぞ。

◎佐藤委員

話は違うのですが、アンケート自由記述欄（大人・保護者）その他（資料3の13ページ）で、「日本の玄関口として、おもてなしムードの漂う平和なまちになってほしい」とか、小中学生の自由記述欄（14ページ）で、「みんなが笑顔でいられるまち、平等なまち、戦争がなく平和なまち」と出されているのですが、大田区は平和都市宣言を行っていきまして、その主な事業に8月15日の「花火の祭典」があるのですが、そこが一番の平和の取り組みということでは言っているわけですけども。ウクライナの戦争の問題もありますが、将来的に戦争がない平和なまちは、こどもたちも含めて区民、国民全員が望んでいる、そういう姿だと思いますから、そういうことをまちづくりの中でも生かしていくような視点というのが私は大事だと思いますし、アンケートにも意見が書かれていますので、そういう取り組みを強める方向も大事かなと思います。

◎松山委員

ありがとうございます。間違いなく重要なポイントですね。おそらくここに関して賛否が分かれるものではないと思うので、いわゆる基本理念みたいなものとして重要なポイントだと思います。ありがとうございます。

よろしければまた最終、冒頭事務局からご説明があったとおり、この場限りで確定をす

るものではなくて、今日の議論をベースに、「何とかのまち」みたいな形でたたき台を事務局の方でつくっていただいて、皆さんで回覧をさせていただくという形になると思いますので、一旦ちょっと今日いただいた議論をもとに、事務局でまとめていただければと思っております。

それでは、お時間も進んでまいりましたので、3回目の意見交換というところで、基本目標の構成に関して、冒頭、事務局からご説明をお願いいたします。

◎野村課長

事務局から、基本目標の構成に関する現時点の事務局の考えについて説明させていただきます。

資料3をご覧ください。資料3の16ページです。基本目標の柱を検討する上でのポイントとして事務局の考えをこちらの資料ではまとめておりますが、ここでいう基本目標の柱というのは、基本構想における基本目標の数を意味しております。ちょっとイメージがつきやすいように、参考資料の2として後日ホームページにもアップします構想をお示しさせていただきますが、基本構想で言いますと将来像を受ける形で存在する、こちらですね、構想の6、7ページに記載しております基本目標ですね、現在の構想では三本柱という形で記載しておりました。新たな構想の基本目標の柱の数等につきましては、今後3つの専門部会の検討結果を踏まえながら、事務局で検討してまいります、1回目の部会の議論や、区民アンケートの結果を踏まえた、現時点での事務局の方向性について記載したものが、先ほどの資料3となっております。

もう一度資料3の方、展開させていただきます。こちらになります、まず1つ目のポイントは安全・安心に関するものとなっております。今回、小中学生から11,000件を超えるアンケートという形でご意見をいただきましたが、その小中学生が望む大田区の将来像は、先ほどの資料2のアンケートにも記載しておりましたが、将来像の2040年の望む姿、この第1位は「犯罪や交通事故が少ないまち」、それから第2位が「子どもの安全が守られているまち」、そして第3位が「地震や風水害などの災害に強いまち」と、いずれも安全・安心に関するものでした。

これだけの明確なご意見をいただいている以上、事務局としましては、先ほどの基本目標の見出しや、フレーズ等の部分で、安全・安心をある程度前面に押し出していく必要があるのではないか、そういった責任があるのではないかというふうに考えております。もちろんそこに書かなくても実現するという解釈もできるのですが、大田区が掲げるものの目立つ部分にその記載がないと、やはりそれを望んでいるのに、それを目指しているということがわかりにくいということもありますので、ある程度このあたりは強調していく必要があるかと考えております。

もっとも安全・安心だけでは、本専門部会の所管分野も押さえられませんので、安全・安心に加えまして、交通や公園、まちづくりの観点からの快適さ、暮らしやすさなども盛

り込んだ柱の形を検討していきたいと考えております。

ただ安全・安心というフレーズも、他自治体の基本構想を見ますと、よく使われているフレーズでして、これを記載しただけですと、なかなかそこの差別化は難しいかなと考えております。特に1回目の部会で、大田区は安全ではあるけど安心ではないのではないかと、体感治安が悪いのではないかといったご意見もありましたので、また他部会の結果も踏まえながらそのバランスを見ながら、よりこの大田区として安全・安心を踏まえ、その他の快適さ、暮らしやすさ、そういったものを踏まえながら、どういうフレーズが一番区民に共感が得られるか、そういった視点からしっかり柱の記載内容を検討していきたいと考えております。

安全・安心が1点目のポイントでして、続いて、2点目のポイントである地域力・DXですが、やはり地域力というのは本部会に限らず、子ども・福祉部会等でも重要な要素として言及されています。先ほど三木委員からも、やはり地域力というのはあらゆる分野に関わるものだと、そういったご意見もございましたし、また、DXに関しても、当然様々な分野に関わりますし、三沢委員からも先ほどまさにDXはこの一つのカテゴリーじゃなくていろいろ関わるものではないか、そういった趣旨のご発言がありました。また松山委員からも第1回の会議でも、やはりDXというのは基本構想の表面にぱっと押し出されるものというよりは、様々な効率化、個別最適化を図っていくためのツールであるといった、そういった趣旨のご意見もございましたので、これは確かに言ってしまえば当然ということと考えられるかもしれませんが、やはり地域力・DXというのは、特定の分野、例えば安全・安心の下に位置づけるものではなくて、行政の姿勢やあり方等とともに、全体に関わる形で整理すべきかと考えております。

最初からそれぐらいわかったのではないかとというご意見もあるかもしれませんが、現構想がまさに基本目標というのは、わずか3つしかなかった柱であることであり、また、そういった意味で最初から全部にかかるとなりますと、三木委員や松山委員に全ての部会に参会いただくことになり、なかなか専門部会という性質もそぐわなくなってしまうので、専門部会はデータブックの分野で分けさせていただいて整理させていただいたのですが、やはり改めて今の事務局の考えとしては、しっかり地域力・DXはもう少し広くとらえ、この部会から派生するものとしては、概ね2本柱になっていくのではないかと。そういった形で今考えております。

この点について今この場で結論を出していただくものではなく、もちろん他部会の結果を踏まえると、またこの事務局の考えが変わっていく可能性もありますが、今一旦この部会の委員の皆様、この点についてのご意見をうかがいながら、審議会の2回目で我々が案を出したときに、全く方向性が違うということがないように、現状のご意見をいただきたいと思っておりますので、短い時間でございますが、ご意見をいただけますと幸いです。説明は以上です。

◎松山委員

ありがとうございました。それでは、短い時間ですけどこの基本目標の構成に関する事務局の案に関して、ご意見いただけますでしょうか。いかがでしょうか。

メインは安全・安心を押し出しましょうと。その中に、基本目標は今後ですけど、フレーズがバーッとあり、それに概要の説明みたいなものがあると思うので。その中で安全・安心を支えるための公園の話とか交通の話とか、この部会でいろいろ議論したことが載ってくるという、そんなイメージなのだろうと理解しています。過去2回の議論のポジションというか、押し出すメインキーワードとしては、先ほど事務局からも、そのまま安全・安心という言葉ではありきたりだから少し変えたいですとの話がありましたが、テーマとしてはこのあたりがメインに出てくることにそんなに違和感はないのかなとは思いますが、ぜひご意見あればいただければと思いますが、よろしいですか。

◎佐藤委員

まず1点目の安全・安心に関しては、他の自治体でも、という話がありましたけど、一般的ですけど大事な話だと思いますので、私はこれでいいと思います。

2点目の地域力・DXですが、今もお話ありましたように、DXというのは、別にここだけの話ではないと思いますので、わざわざ地域力・DXとする必要はないのかなというのが意見です。これでは地域力の中にデジタルトランスフォーメーションを入れていくのかという誤解も与えかねないと考えますし、名前としても、ここでDXを押し出す必要があるのか、と私は違和感を覚えます。

◎小谷木委員

その意見に関して、DXで言いますと、先ほどから「誰一人取り残されない」というキーワードが今までの議論で出ていたと思いますし、これはデジタル庁のスローガン、ミッションみたいなキーワードだと思いますけど。地域力に関しましても、デジタルになじみがないご高齢の方もいらっしゃると思いますけど、それをむりやり抱き合わせるといふことにはなって、ある意味「誰一人取り残されない」という共通項で言うと、災害のときに地域力で、高齢の方とか、逆に小さいお子様方とか、そういった「誰一人取り残されない」という視点から見たら非常にいい組み合わせなのではないのかなと思いますので、私はこの抱き合わせに関しては特に違和感はないです。

◎松山委員

多分、地域力みたいなものがある種アナログとしてのツール、人の繋がりみたいなツールとしてあって、テクノロジーみたいなツール、同じ意味であらゆる分野に支えるツールみたいな意味で共通だと思うのですよね。佐藤委員のおっしゃったところも多分あると思っていて、私も。事務局に確認してしまい恐縮ですが、地域力・DXを基本目標の、例

えば安全・安心とか他の部会の産業などの、そのレイヤーの一つに入れるのか、それとも共通基盤として、基本目標とはちょっと違う形の想定なのか。そのあたりどんな感じでしたか。

◎野村課長

資料で上の青字は柱を、下は全体にかかる形で整理というふうに、いま明確にこれを柱とすることは考えておりません。ただ柱にしないかと言いますと、やはり現在の基本目標ですと、3つ目の柱として、「地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち」とありますので、この地域力を今この場で柱にはしないというのは少し早急かなと考えておりますが、おっしゃるとおり上は柱と考えているのですが、下はもしかすると理念のようなどころにいくかもしれませんし、それぞれの分野にちりばめる形になるかもしれないと考えていますので、ここは最後、一旦ちょっとそこは別の次元で考えて整理させていただき、そういった提案でございます。

◎松山委員

理解しています。地域力・DXが分野を跨いで共通して重要であるということは皆さん一緒に、佐藤委員がご指摘いただいたのはそれが安全・安心と同じレイヤー的に地域力・DXがあることはちょっと違和感があるよねということだと思うので、まさに今事務局も結論は出てないと思うのですが、そういう形でレイヤーが違うものとしてどうまとめていくかということだと思うので、それは一旦、そういうことであればそんなに皆さん違和感ないかなと思うので、どういう形で地域力・DXを入れていくかというのは今後案をいただいて、ご議論させていただくという形にしましょうか。ありがとうございます。

すみません、私が勝手にちょっとまとめみたいなこと言っちゃいましたけど、構成に関して今の方向性で他に何かご意見ある方、大丈夫ですか。よろしいですか。

一旦今日のところ仮の結論としてはそういう形で、冒頭ありましたけど、今日は村木部会長もご不在ですので、この後事務局で取りまとめいただいて、再度皆様の今日の議論を確認させていただいた上で、我々部会からの意見として審議会に出していければというふうに思いますのでよろしく願いいたします。活発な意見交換ありがとうございました。それでは一旦事務局に進行をお戻しさせていただきます。

◎齋藤部長

松山さんありがとうございました。それでは事務局から今後の予定について説明をさせていただきます。

3 今後の予定

◎野村課長

今後の予定について説明いたします。今回の会議で、時間の都合等により、会議内にご発言いただけなかったご意見等ございましたら、会議後に事務局が送付する様式に記入する形で、8月28日までに、事務局までご提出いただきたいと思いますと考えております。

こうした追加意見も踏まえた上で、部会長にも相談の上、先ほどのフォーマットに落とし込むような形で、事務局で専門部会の意見を取りまとめさせていただきます。

その後、部員の皆様全員にご確認いただき、了承がとれましたら確定し、その後、第2回の審議会に上げていく、そういった流れを今想定しております。

なお第2回の審議会につきましては、令和5年10月8日、日曜日の14時から17時、大田区本庁舎5階会議室での開催を予定しております。事務局からの今後についての説明は以上です。

◎齋藤部長

それでは全体を通じて何かございますでしょうか。

それではまちづくり・防災の第2回専門部会、これにて終了させていただきます。

委員の皆様お疲れ様でございました。ありがとうございました。

閉会

以上